

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	岐阜県下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	令和元年9月18日	評価結果市町村受理日	令和元年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192800064-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9人家族、毎日が同じ顔、同じ生活、楽しいことは一緒に笑い、悲しいことは一緒に泣き、時には口喧嘩もし、翌朝は何もなかったと、また「おはよう、今日も頑張ろうな」と、一日が始まる。平凡で当たり障りのない生活の中でも9人は一つ。その家族にも9人はとても温かく迎えてくださる、「ゆっくりしていきなさい、ようきとくれた」と、当たり前のように声をかけてくださる。そんな人間のありのままの情感のある温かい9人家族作りに力を入れ職員も家族の一員となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山々に囲まれた地にあり、近くを馬瀬川の清流が流れている。利用者は、住み慣れた故郷の情景に触れながら、職員と共に、笑顔で穏やかに暮らしている。昨年、台風による停電を3日間経験することとなったが、その後の防災対策として、市の協力を得て、自家発電機の設置が確定している。管理者は、職員同士の連帯意識を高められるよう環境作りに取り組み、なんでも話し合える関係を築いている。そして、利用者とは、同じ屋根の下で暮らす家族のように、方言を交えながら楽しい会話を交わし、「いきいきと今、そして明日へ。」と、より良い支援の実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に各職員が理念を念頭に置き、利用者の人生史を尊重しながら、実践出来るように心がけ実践に繋げている。	理念は、「ゲスト(利用者)に満足と笑顔を、地域に安心と輝きを」と掲げている。職員は、日々理念の原点に立ち返り、利用者が笑顔で、希望のある明日が迎えられる支援を心がけ、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事への参加(例祭、清掃活動)によりつながりを大切にし、地域共存社会を目指している。	地域の諸行事や防災訓練などに積極的に参加し、2階にある歯科診療所には、地域住民も受診している。また、傾聴ボランティアや少年野球チームが訪れたり、事業所のイベントには、近隣住民を招き、交流する機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症講演会、勉強会の参加により現場に活かしかし家族、地域ボランティア等に率先して、具体例なども伝えながら理解しやすく伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族参加で行われた行事、夏まつりを利用し運営推進会議への同時参加者は多数で行政の職員とも話し合いの場が設けられた。	運営推進会議には、家族に加え利用者も参加し、懇親の場にもなっている。会議では、現在の状況と事故などを報告し、人出不足や福祉環境、災害対策でも話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議への参加、市の担当者には現状報告し、情報の交換を図っている。また居宅介護支援所とは常に情報交換し共有している。現状をお互いが把握できることにより、より早い対応、相談解決に繋がっている。	運営推進会では、市の担当者と情報を交換し、事業所の現状を報告している。地域ケア会議や人材バンクの会議に出席し、連携を図っている。今年度は、運営全般で市から実地指導を受け、速やかに改善に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、勉強会や研修を受け拘束のない支援のあり方に全員が取り組んでいる。施錠は日中は原則行っていない。	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、勉強会を定期に行い、拘束をしないケアを実践している。現在、拘束の事例はないが、マニュアルに沿って学習している。玄関の施錠は、夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がりそうな時の雰囲気や言葉掛けは常に注意ができ職員が常に意識出来るよう勉強会や会議での話題性を提供する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設利用者の中でも独居の方が増えている。個々に応じて必要とされる場合は常時説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は時間をかけ自宅へ出向き行っている。説明は丁寧に行い理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者の様子をお手紙や写真で伝える事により家族に普段の様子を理解し、面会や電話でも常時お伝えできる環境にある、要望等があるときは心身に受け止めリーダー会議を通じて職員に周知している。	利用者の意見や要望は、担当者を中心に把握し、家族には、面会時や運営推進会議の場で聴いている。また、家族に送る手書きのメッセージには、利用者一人ひとりの暮らしの様子を、笑顔の写真入りで伝えている。家族アンケートの満足度も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談という機会を設け普段の業務の様子や意見を聞く機会を設け、管理者会議でまとまった要望や改善点の会議を開催する事が出来ている。	職員の意見や提案、課題などを検討する諸会議を開催している。また、個別面談の機会も設けている。ケアの個別対応や職員の連携のあり方、講座受講について話し合い、それらを運営に反映させている。	職員の専門性の向上を目指して計画的な学習会を設定し、その成果を利用者サービスに、より活かせる工夫に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には常に情報を提供している。自己評価を含め意見の徴収、面談を行い、各自の向上心の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	考えながら働くことにより疑問や意見が話し合える職員同士の関係作りがある、また地域で開催される講座には多くの職員が参加出来るように呼びかけ全員が一年に一回は外の研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、高齢福祉課、医師会主催の認知症の理解を深める講座に参加し相互の活動を理解し取り入れるべき事は話し合いサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを正確に捉えケアマネージャーと管理者で確認し各職員に統一を測り、日々の生活の様子を見ながら修正を測りケアプランの見直しに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明には時間をかけ、利用者は当然のこと家族にとっても苦痛なく納得がいくまで要望や説明に勤めている、また後日でも電話でも対応させて頂けるよう説明し理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をゆっくり全て聞き入れサービスの導入を見極め施設での最大限のサービスの提供を提案し両者納得の上、契約に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にそっと寄り添い些細な行動や発言を見逃さずケアに生かし安心して過ごせるよう両者の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されれば一安心かもしれないがいつまでも大切な家族、家族の支えをお願いしつつホーム内では本人の出来る事を活かしながら共同生活を送れるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に近所の方や友人の面会が多く雰囲気作りに努め切れることのない生活が送れるよう支援している。馴染みの美容院、温泉施設へも家族様と一緒に外出される事が多い。	友人、身内の面会も多く、関係が途切れないように気配りしている。併設の特養ホーム入所者や歯科受診者等、馴染みの人が来訪することもある。家族の協力を得て、美容院や温泉施設、公園、夏祭りなどにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9人が1つの家族、どんなことも一緒に分かち合える仲間作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様に電話にて近状報告を行い施設での生活を記録したアルバムを贈り家族に安心感をもって頂ける様に努め、繋がりをいつまでも保てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に関わる事を多くし、仕草や会話の中で希望や思いを聞き入れ統一したケアを行う事で利用者が迷いなく生活し本人本位に努めている。	日々の関わりの中で利用者の思いを把握し、気づいたことは記録に留め、職員間で共有している。難聴の人には、耳元で語りかけ、個々の生活歴や習慣、こだわりを受け止めながら、本人本位の生活支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族、担当支援専門員から情報を集めるほか、入所後も施設内の生活から安心できるケア方法を見つけ安心に繋がっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を職員同士で話し合い、管理者報告の元、統一性を図るため記録や申し送りにて周知徹底に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が、毎月モニタリングを行い特に変化のあった部分を全体会議に話し合い全員で意見を出し合いプランに反映し介護計画のもと、統一したケアに努めている。	担当者会議で、職員の意見やアイデアを計画に反映させ、モニタリングも毎月行っている。家族の意向は、面会時に話し合い、口腔ケアなど個別のニーズを踏まえ、健康を維持できる介護計画作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は日々起こったことを事実のまま記録し利用者の第二の声と受け止め、会議や管理者に報告や相談し職員間の統一を測り介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況を見極め柔軟な対応に最大限の提供を行っている。併設型施設の為機械浴や栄養補助食品の提供、補助具の提供も行いサービスの多機能化に取り組んでいる。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア(傾聴、野球チーム、近隣)の力を借りて日々の生活に変化をもたらす充実のある生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療所から往診体制をとっている、24時間往診体制が整い又、相談等も電話にて受け入れて頂ける体制を取っている。	かかりつけ医は、全員が協力医を選択し、往診体制を整えている。2名のみ年に数回、総合病院で継続検診を受けている。2階には、歯科診療所もあり、併設の看護師や診療所と連携しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師が、定期的に勤務に入り健康状態の把握に努め、急変時の対応や主治医への報告や家族への説明、アドバイスにも力を入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は情報提供を敏速に行い情報の共有を行っている。病院関係者とは訪問し関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、重度化したときの意向の確認を行い指針の説明、同意書を交わしている。実際に看取り期には、医師から家族への説明の面談を設け安心出来る環境作りを行っている。	契約時に、重度化や終末期の指針を説明し、同意書を交わしている。段階的に、家族と主治医が話し合い、方針を確認している。終末期は、家族の意向を尊重し、穏やかな最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員参加の救急救命訓練を実施し、職員同士が確認、共有し急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は全員が参加し下呂市の防災訓練にも参加している、地元惣島区と災害時相互応援協定を結成し施設側からは避難場所の提供や非常食の提供、地元からは人的支援が受けられるよう、協力体制を築いている。	災害訓練は、火災を中心に行い、多種の災害も想定している。地域とは、災害時の相互応援協定を結び、公共の砂防工事は完成している。大型発電機の設置を予算化し、備蓄品も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念にも掲げてあるように、利用者の人生史を大切に言葉がけの中に取り入れながら密な関係を作り丁寧な対応に心がけている。	職員は、言葉かけ時には、常に寛容と慈愛を持って笑顔で接するよう心がけている。利用者を人生の先輩として敬いながら「ゲスト」と位置付け、一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	迷いなく自己決定が行える支援を行っている、明確で理解しやすい言葉掛けを職員は注意し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調を把握し、日々の変化に対応できるよう利用者の思いを多く聞ける時間を設け、本人本位の元、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のおしゃれにまかせ、身だしなみには声かけ程度とし、迷いの少ない身だしなみを心がけ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や郷土料理を取り入れながら利用者とも会話が弾み出来る範囲で一緒に料理し味付けの感想も共有できる関係作りを行っている、又後片付けは全員が参加し食器拭きやおしぼりをたたんでくださる。	利用者は、食材の下ごしらえや片づけに関わり、味加減を職員と相談したり、郷土料理づくりでは、経験を発揮している。職員は利用者と一緒に同じものを食し、雰囲気作りに努め、利用者もまた、食事を楽しむことが出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態を把握し、水分制限や栄養バランスの提供も行っている、又栄養士によるカロリー指導もあり職員の共有もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず、施設内の歯科衛生士による口腔ケアや状態把握に努め健康維持に繋げている。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を確認し、早めの対応を心がけ失敗の少ない支援を行っている。	排泄の自立度が高い人が多く、布パンツを常用している利用者もいる。夜間も、ポータブルトイレの設置はせず、見守りと転倒予防の介助に努めている。個々の排泄習慣を把握して支援し、排泄用品費用の負担軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や、食物繊維を多く摂取し毎日の日課で運動や体操を取り入れ便秘の予防と対応に取り組んでいる。薬をなるべく使用せず自然排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じた入浴時間を提供し、時には夜間入浴も行っている、羞恥心に配慮し異性入浴介護を拒否される利用者には同性介護を行っている。	入浴日を設定し、時間帯は希望に応じながら支援し、入浴拒否の人は、足湯やシャワー浴に変えたり、促し方や介助者の相性を考慮するなど工夫している。重度者には、併設の特養ホームの機械浴を利用し、安心安全な入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し自分のペースで休んで頂くよう支援し夜間眠れない時は無理をせず職員が寄り添える範囲で寄り添い安心に繋げ入眠の手助けに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を確認しやすくするために日々の介護記録に薬の詳細と一緒に挟んでいる、服薬の毎日の確認印も行い飲み忘れのないケアを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を発揮出来るよう日課表に記載し全員が支援出来る状況にある、やる気をださせる声かけを行い楽しみややりがいに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課で戸外に出て気分転換に努めている。又家族や親戚、知人の協力を得て温泉や理容員、買い物、外食等繋がりをもち楽しみに繋げている。	日常は周辺を散歩し、前庭で花や野菜を育てながら、外気にあたり気分転換を図っている。四季折々に、ドライブを兼ねて出かけたり、家族と協力して買い物や外食、一時帰宅などを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て本人の不安を取り除き、多少の金銭を持参している利用者は数名みえる。時々、自販機での買い物を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持される利用者は数名みえ家族や知人に常時連絡の取れる環境にあり繋がりを大切にされる、また施設の電話を使い家族等に連絡される利用者もあり、繋がりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	併設する特養へは常時行ききでどこでも安らげる空間の提供場所がある、季節の物を自然から多く取り入れ、快適で日々変化のある充実感ある場所となるよう工夫をしている。	共用の間は広く、窓越しに壮大な景観を眺めながら、四季の移り変わりを感じることができる。随所に観葉植物や花を飾り、壁には、季節毎に入れ替える貼り絵の大作、絵画や思い出の写真も掲示している。併設の特養は同じ建物内にあり、自由に行き来している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設館内はどこでも出掛けることができ数人で出かけられる事が多い、又一人で過ごしたい利用者にはそっと職員が寄り添い寂しさのない支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら慣れ浸んだ家具や洋服を取り入れ迷いなく安心し又懐かしく思い出せる居室作りを行っている、利用者同士がお互いの部屋に入り雑談やテレビを一緒に観て過ごせるそんな仲間作りも出来ている。	居室には、エアコン、洗面台を備えている。馴染みの家具類やテレビの持ち込みもある。日用品を好みに配置し、日めくりカレンダーやぬいぐるみ、家族の写真を飾り、居心地のよい部屋づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所がわかるよう、利用者が手書きされた表札や目印がある。利用者同士で教え合いながら理解し自立した生活が送られている。		